

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 2 2 7

2 0 1 2 年

7 ~ 8 月号

行 事 案 内

7月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 7月8日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 手賀沼周辺は夏鳥で賑わっています。湖面に、葦原に、田圃に、そして上空に、夏にふさわしい鳥達がいることでしょうか。どんな鳥がいるのか注意深く観察しましょう。

解 散 正午
担 当 北原

集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分
案 内 7月、8月は野鳥の出現が少ない(昨年7月12種、8月11種)ですが、葛、葦、ヒメガマの茂るピオトープ、稲田、手賀沼水辺で野鳥を探してみよう。野鳥の他に蝶、蜻蛉、バッタ等の昆虫、蛙、樹木の花と実、野草の花、水生植物の花(ヒメガマ、マコモ等)も観察できます。

解 散 11時30分
担 当 鈴木静治
Tel: 04-7186-4191

8月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 8月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 真夏の盛りですが、シギチの渡りが待ち遠しくなってくる季節です。手賀沼の水鳥や夏鳥も子育てを終え、幼鳥が見られるかも知れません。子育ての行動をじっくり観察したり、成鳥と幼鳥の違いも実感できるでしょう。暑さ対策と水分補給も忘れずに。

解 散 正午
担 当 船津

7月、8月ピオトープ調査

期 日 7月5日(木) 雨天延期
8月9日(木) 雨天延期

茨城県南部 シギチ探鳥会

期 日 8月26日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 シギ・チドリなどを探します。現地は、車内以外に日陰は皆無です。暑さ対策を忘れずをお願いします。詳細ルートは、昨年をベースに最新情報や下見の結果を加味し決めます。

交 通 自家用車に分乗です。分乗者は1人1,500円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡下さい。

持 物 観察用具、雨具、昼食・飲料水(途中のコンビニで購入可)

申 込 松田幸保まで
Tel: 04-7182-8307

担 当 松田、松本

ホタルの夕べ

期 日 8月5日(日) 雨天中止
集 合 東我孫子駅前 午後7時
案 内 恒例の岡発戸・都部でのホタル鑑賞
会です。谷津田は整備されてきて、
水辺や湿地の生物も増えてきてい
ます。今年はヘイケボタルが去年以
上観察されるでしょうか。去年は
125頭超でした。楽しみです。
持 参 懐中電灯、虫除け対策
解 散 午後8時を目安。東我孫子駅前
申 込 不要
担 当 木村、染谷

映 写 会

期 日 7月28日(土) 13:30~16:00
場 所 我孫子北近隣センター(並木本館)
我孫子市並木5-4-6
Tel: 04-7157-4517
(場所が例年と異なります)
案 内 会員の撮った写真やビデオを映写
して楽しめます。作品を発表する方
は7月20日(金)までに、野口宛
写真の種類・枚数またはビデオの上
映時間を連絡してください。写真は
スライド、デジタル画像のいずれで
も構いません。但し、内容は鳥や動
物など自然関連のものとし、一人
40枚以内とします。

デジタル画像ファイルは下記の通りで
お願いします。

メディア: USB メモリーまたは CDR
ファイル:一括コピーできるよう発表
者名のついたホルダーに収納
ファイル名: 番号・題名・撮影場所・
日付・拡張子
例 01 ムナグロ 発作 120506.jpeg
(発作で 12/05/06 撮影)

画像サイズ: 800×600ピクセル以内
発表作品は当日ご持参ください。但し

デジタル画像は開始前にパソコンに
インストールしておきますので午後
1時まで提出してください。

申 込 野口隆也
Tel: 04-7163-7898
その他 映写会終了後、恒例の納涼会があり
ます。そちらも是非ご参加ください。
担 当 相良、野口

納 涼 会

期 日 7月28日(土) 17:30~
場 所 「庄や」我孫子北口店
我孫子市我孫子1-1-16
Tel: 04-7185-3953
会 費 3,000円
案 内 映写会後の懇親会です。年に一回の
暑気払いです。暑さの中、会員間の
コミュニケーションを大いに深め
ましょう!
申 込 野口隆也まで
Tel: 04-7163-7898
担 当 相良、野口

7月役員会開催

日 時 7月8日(日) 13:30~16:00
場 所 水の館 3階研修室
議 題 JBF2012 出展について
役員の業務分担について
次の一步検討委員会(仮称)に
ついて
会報 228号記載記事について
事務局体制について
その他(議題のある場合は事務
局までご連絡下さい)

行事報告

4月手賀沼探鳥会

調査日時 2012.4.8 9:00~ 12:00

晴れ、弱風、気温 15

残っていたカモとしてはコガモ、オカヨシガモとヒドリガモを観察できました。猛禽類もオオタカとハヤブサが出現し、また、会員が根性で見つけたタシギやアカハラなどが桜と共に春の午前を楽しませてくれました。

<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オオタカ、ハヤブサ、キジ、バン、オオバン、タシギ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、マヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 35種

<探鳥班>野口隆也、村瀬和則、西城猛、田中悟、栗田励、谷山晴男、橋本悦子、原礼子、田丸喜昭、田丸メリールイス、池内大典、大久保陸夫、田中恒雄、今村之明、常盤孝義、宮下三禮、類地佑子、松本勝英、松本葉子、川村美恵子、松田幸保、松下勝子、小林博之、船津登、武藤康之、西嶋昭生、天野睦子、佐藤弘美、間野吉幸、六角昭男、猪爪敏夫、古出洋子、鈴木静治、小玉文夫 (担当)佐々木隆 参加者 35名

<カウント班>木村稔、田中功、桑森亮

調査日時 2012.4.8 9:20~ 12:10

晴 無風 17

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	11	3	14
カンムリカイツブリ	9	2	11
カワウ	16	65	81
ダイサギ	3	0	3
コサギ	1	2	3
アオサギ	12	3	15
コブハクチョウ	27	17	44

カルガモ	19	2	21
コガモ	61	0	61
ホシヅメ	0	1	1
バン	1	0	1
オオバン	12	25	37
ユリカモメ	0	4	4
セグロカモメ	0	15	15
合計	172	139	311

<ピオトーブ班>猪爪敏夫、谷山晴男、鈴木静治、間野吉幸

調査日時 2012.4.12 9:30~ 11:30

快晴 やや強い風 19-21

雲ひとつもない快晴、強い風のため沼の水面が波立つ、水位高い。沼岸の桜満開、ヒヨドリが桜の花の蜜を吸うため群がる。柳の花芽・新芽・若葉が綺麗。葦・蒲が枯れ倒れている場所は鳥を観察しやすい。まだカラスの営巣なし。斜面林からウグイスの囀り聞こえる。

<認めた鳥> カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、キジ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 22種

5月手賀沼探鳥会

調査日時 2012.5.13 9:00~ 12:00

5月の定例探鳥会は例年通り「第23回バードウィーク手賀沼探鳥会」として実施した。

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、キジ、オオバン、コチドリ、アジサシ、キジバト、コゲラ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 29種

番外 カワラバト、アヒル

<参加者>北原建郎、間野吉幸、桑森亮、松田幸保、西嶋昭生、武藤康之、谷山晴男、小林秀美、清岡万紀子、金子幸子、相良直己、野口隆也、小林寿美子、船津登、今村之明、橋本了次、六角昭男、田中恒雄、小玉文夫、金子雅幸、猪爪敏夫、小谷久子、原礼子、橋本悦子、野口紀子、小島経一（担当）染谷迪夫 参加者 27名

<カウント班>木村稔、染谷迪夫

調査日時 2011.5.21 8:30~10:50

晴 中風 20

調査種	上沼	下沼	合計
カイツリ	3	1	4
カウ	29	38	67
ダ イギ	3	2	5
チュウギ	2	0	2
アオサ	11	2	13
コバクチョウ	11	8	19
カルガモ	1	4	5
キンカバシロ	0	1	1
オオバン	1	3	4
コアシサ	2	0	2
合計	63	59	122

<ピオトーブ班>猪爪敏夫、谷山晴男、鈴木静治、間野吉幸

調査日時 2012.5.10 9:30~11:30

晴 無風 23

多くの冬鳥去り、少数の夏鳥が見られた。繁殖期のモズの縄張り争い、池岸のコバクチョウの抱卵、水田でマガモ、カルガモの採食が観察できた。

<認めた鳥>カイツリ、カウ、アオサギ、コバクチョウ、マガモ、カルガモ、バン、オオバン、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、オオヨシキリ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 18種

葛西臨海公園探鳥会

4月22日

相良直己

1.探鳥会参加の喜び

昨年秋のジャパンバードフェスティバル時に入会した私にとって、今回の葛西臨海公園の探鳥会は手賀沼以外での初めての探鳥会への参加である。場所はこの2年ほど毎月1回、これまで20数回行ったことのあるお馴染みの葛西臨海公園。しかし、これまで一人だけの単独行動。数回参加した定例探鳥会で、団体で行動する探鳥会の素晴らしさに気付かされた私にとって、今回も新しい体験への期待でわくわく。小学生の遠足のように前の日より準備を整え、葛西臨海公園野鳥園のブログをインターネットで確認。潮見表で干満の時間を確認し、朝起きるや、勇躍、葛西臨海公園に向かった。

3年余り前から、健康のために週末はカメラ片手に歩くことを心がけ、始まった探鳥歴。これまでの一人での探鳥に比べ、団体での探鳥会の素晴らしさは以下の点にある。

視野が深まる（数十の目で見ることにより、一人では気付かなかった発見が毎回ある）

視界が広がる（コンパクト・デジカメと双眼鏡のみでは見えない遠くの世界をフィールド・スコープ等で見せてもらえる）

知識・興味が深まる（経験の深い先達の皆様より様々なことを教えてもらえる）
五感を使えるようになる（耳で味わい、雰囲気味わうことに導かれる）

さて、それでは、今回はどうであったろうか？

今回の探鳥会のご報告と感想を述べてみたい。

2.ツルシギ、オオハシシギ現る

天気予報では、九州、関西では豪雨、全国的に雨とのこと、開催が危ぶまれたが、関東は午後から雨との予報。午前中は何とか持ちそうとのことで開催決定。

24名が参加し、幹事の松田さん、野口さんの先導で探鳥会スタート。

今回の目玉は

4/15から上池にシマアジの番いが現れ、前日まで毎日見ることができている

4/15から芦が池にミヤマホオジロが出没

以上はインターネットの野鳥園のブログでも確認

ツルシギを見たとの当日情報

春の渡りのシギチにどれだけ逢えか？

期待に胸を膨らませ、まずは上の池へ。いきなりハシビロガモの番いがお出迎え。キンクロハジロは約 100 羽余、ホシハジロ 20 羽程度、他にカルガモ、コガモ、ヒドリモ……前回 4/6 に来た時よりは随分減った。次回来る時にはもう皆北帰行。

上の池は寂しくなるだろうな……？他にアオサギ、ダイサギ、オオバン……

お目当てのシマアジには逢う事できず。まだ一度も直接見たことは無いので残念。

続いて下の池に移動。まっすぐ狙い目の“擬岩”の観察窓へ直行……

「いたいた！ まだ冬羽のツルシギ 1 羽に、夏羽のオオハシシギ 1 羽、そしてアオアシシギ 3 羽。

でも少ない。他のシギ、チドリは見かけず。昨日(4/21)出かけた谷津干潟ではチュウシヤクシギ、キアシシギ、オグロシギ、メダイチドリ、コチドリ、ダイゼン、ムナグロ、トウネンなどなど既にかなり入ってきていたのに……」

それでも、じっくり時間をかけて、珍しいツルシギとオオハシシギを見ることができ、全員大満足。誰言うでもなく、二つ合わせて、“ツルハシ”と盛り上がる。

そこへ、上空にオオタカ出現。5 羽とも一斉に飛び立つ。アオサギ等の大型のサギ類まで姿を隠す。下の池は、鳥影全く見えない静寂の世界へ。他の観察窓へ回っても状況は変わらず。江戸川河口沿いに歩き、西の渚を目指す。

3.こんな大干潮は葛西では初めて

当日は大潮の最も干満の差の大きい日。しかも干潮は 11 時過ぎ。今、まさに 11 時半。これまで何回も来た葛西臨海公園ではあるがこんなに潮が引いているのを見たのは初めて。渚が沖へ遠のき、広大な砂浜に夏羽に変わった黒頭巾のユリカモメとダイサギ、コサギが多数採餌中。

西の渚は今冬の養浜工事も終わり一新。新たに芝が植えられ、案内板もできている。朝早くから行動開始のため、そろそろ空腹。西の渚のベンチで思い思いにお弁当。残念ながら大干潮のため、波打ち際が遠い、遠い……ミヤコドリもダイシャクシギも肉眼では点

のよう。フィールドスコープが威力発揮。沖合には数百羽のスズガモの群れとその手前に同じく数百羽のハジロカイツブリの群れ。

手前の浜には、カモメ、セグロカモメ……などなど

数日前に「カモメ観察ノート」なる書籍を買って読み始めたばかり。“ただ”カモメ(カモメ *Larus canus* のことです)の幼鳥が何年時の羽か話題に花咲く。勉強したばかりで話題に入れて良かった。

そうこうして居る内に雨がパラパラ……江戸川水路、荒川水路が西の渚では必見の定番ではあるが雨が心配で今回は断念。もう数時間経つと潮が満ちてきて、波打ち際の鳥たちももっと近くなるのだけど……

芦が池を経由して駅へ向かう。芦が池では残念ながらミヤマホオジロに出会うこともかなわず。

4.大満足して帰路へ

何とか雨にもぬれず、探鳥会終了。葛西臨海公園駅前で鳥合わせ。シギチは少なかったけれどそれなりに成果。

今回も探鳥会であるからこそその魅力を味わいました。

ミヤコドリ、ダイシャクシギなどを見ることができたのはフィールドスコープの威力。今回も間野会長のフィールドスコープのお世話になりました。ありがとうございました。その場でツルシギとオオハシシギと同定できたのは諸先輩の皆様の博識と経験。自分一人での探鳥ならば、帰宅後写真と図鑑を見比べて“ああ、こうだ”と自問自答していたことでしょう。

カモメ類の換羽に関して、新たな興味も湧き、知識も得ました。シギチの種類・数も期待ほどではありませんでしたが、天候がもう一つの中で“ツルハシ！”をみる事ができ、また、皆様と楽しく会話でき大満足した一日でした。今後も機会を見つけ参加し、また新たな発見でわくわくしたいと思います。幹事の松田さん、野口さんありがとうございました。

【幹事報告】

干潮が 11:33 で本来「西なぎさ」を先に回る予定でしたが、午後から雨が予想されたため、事前の鳥情報が多かった「鳥類園」の方

から回ることにしました。

事前情報のシマアジ、ミヤマホオジロは見られませんでした。オオハシギ、アオアシギに加え、ツルシギをじっくりと観察することができました。

「西なぎさ」では予想通り干潮の最中で、人も多く、鳥が遠くになってしまいました。しかし、定番のスズガモの群れ、ミヤコドリに加え、ハジロカイツブリの群れ、ダイシャクシギも見られました。

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、オオタカ、バン、オオバン、ミヤコドリ、コチドリ、オオハシギ、ツルシギ、アオアシギ、ダイシャクシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、カモメ、キジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 42 種 番外カワラバト

<参加者>山住良子、間野吉幸、大久保陸夫、桑森亮、柴本三弘、柴本法子、井上正、中野久夫、古賀嗣朗、鈴木静治、金子雅幸、田中恒雄、中根忠、中根洋子、船津登、池内大典、古出洋子、田丸喜昭、田丸メリールイス、吉田隆行、相良直己、松下勝子(幹事)松田幸保、野口隆也 計 24 名

御前山探鳥会

5月4日

中根洋子・中根忠

5月4日(金)の朝、こぬか雨が降っています。昨日からの大雨の続きでしょうか？探鳥会開催が危ぶまれる中、幹事さんと分乗する車の運転手の皆さんとの相談の結果、現地の天気が曇りから晴れになるという予報を信じて決行が決まりました。参加者は、21名。

駐車場に予定している増水的那珂川の河川敷を気にしながら、我孫子駅北口より、5台の車に分乗して出発しました。高速に入ると本格的な雨になりました。が、那珂川大橋

手前の道の駅「かつら」に到着した時は、曇り空で安心しました。しかし、那珂川は、河川敷間際まで増水して濁っていました。ヤマセミも飛ぶという清流的那珂川の探鳥も今日は期待できません。予定では、御前山林道から西登山道に行くことになっていましたが、現地の人のお話では、登山道は、ぬかるみになっていて長靴でも歩きづらいとのことなので、「道の駅」の駐車場の対面の道から林道付近を歩いて行くことになりました。

周辺の民家の上空をトビが舞い、ノスリやセキレイが観察されました。少し進むと普段は涸川といわれている皇都川(こうとがわ)にぶつかりました。今日は、増水していて、ゴー・ゴーと水音高く波打っています。川に沿って進むとケヤキ林が広がっています。この間に多くの鳥の囀りが聞こえていました。

「ヒーコーキー」、「??ホイホイ」、「??チリリリリ」。イカル、サンコウチョウ、オオルリの声でしょうか。声はすれども姿を見せてくれません。少し歩くと林道に皇都川の水があふれ出し、水が道を横切って流れています。それでも皆、靴を水びたしにしながら歩いていきます。

そんな中、木々の間に鳥が2羽飛んでいます。空抜けのため黒っぽく見えてよく分かりません。晴れの予定が、いつの間にか雨がふりだしました。カメラのレンズにも雨が当たっています。暗いのでISOを3200に設定し、露出補正を+1/3にして連写してみました。その場でカメラの液晶を見るとイカルが写っていました。

雨が、かなり激しくなり、この時点で天気予報が「大外れ」なことに気がつきました。さらに進むと林道も「通行止め」となりました。帰りにはノスリがカラスに追われていたり、民家のアンテナにキセキレイがとまっていたり、小さな茂みにメジロがいたりしました。

「道の駅」に戻って、今後のスケジュールの検討後、予定変更して、「青少年旅行村」で昼食をとることになりました。5台の車が「ぬかるみの山道」を登っていきます。「青少年旅行村」の建物は空いていましたが、人は不在のため、電灯の明かりもなく、暗い土間で食事しました。皆でわいわい言っていると、こんな暗い中でも楽しいものです。

少しこの付近を探鳥しましたが、雨が激しくなってきたので、ここから我孫子に帰ることになりました。不安定の天候の中の探鳥会でしたが、事故もなく、無事で、元気に帰途につけたことに感謝します。幹事さん、皆さん、お疲れ様でした。

【幹事報告】

雨模様であったが、現地は降らないとの天気予報を信じて参加者全員の意気込みで出発した。途中雨が、強く降ったり弱くなったりしたが、現地に着いたら雨が上がって、探鳥出来るようになった。しかし登山道はぬかって無理なので、車道を通って探鳥した。沢の脇を通る道は、新緑に包まれ、青葉が目にはやさしく、沢のオゾンとフィトンチットに包まれて、爽快だった。参加者も緑の真只中を体験して、決して探鳥に良い環境とはいえないのに楽しそうだった。今回は見た鳥はまあまあだったが、参加者の楽しそうな様子が担当者としては救いだった。

<認めた鳥> カワウ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、キジバト、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオルリ、サンコウチョウ? ヤマガラシジュウカラ、メ

ジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、 31種

<参加者> 田丸喜昭、田丸メリールイス、池内大典、古賀嗣郎、北原建郎、飯島博、松下勝子、川越久枝、間野吉幸、鈴木静治、中根忠、中根洋子、山住良子、桑森亮、松本勝英、田中恒雄、金子雅幸、古出洋子、金子幸子 (幹事) 染谷迪夫、小玉文夫

参加者 21名

2012 Enjoy手賀沼!

5月13日

日時 5月13日(日) 9:00~12:00

手賀沼親水広場から徒歩で手賀沼周辺を探鳥後、鳥博館駐車場で鳥合わせ後解散晴天に恵まれ、バードウィーク(5月10日~16日)にふさわしいイベントとなりました。

参加者 会員 27名、一般 23名

マンツーマンの指導体制で取り組み、その結果各班とも22~29種類の探鳥が出来ました。(染谷迪夫)

鳥 だ よ り

- | | |
|--|--|
| 3.26 [新木] /ス(1) 住宅上空を飛ぶ
鈴木静治 | 3.28 [江蔵地] へニシコ(2) 河原の柳の花芽
を啄ばむ
鈴木静治 |
| 3.26 [千間橋] フョウソウ(1) 田で停飛を
繰り返し飛ぶ
鈴木静治 | 3.28 [江蔵地] ハイロウ(1) 葦原を滑空す
る
鈴木静治 |
| 3.26 [千間橋] 材カ(1) スズメに混じり葦に
とまる
鈴木静治 | 4.01 [江蔵地] へニシコ(2) 川岸の柳の花穂
を啄ばむ
鈴木静治 |
| 3.27 [江蔵地] へニシコ(2) 柳の花芽を啄ば
む
鈴木静治 | 4.01 [上沼田] ヒ(2) 2羽で旋回しながら
飛ぶ
鈴木静治 |
| 3.27 [江蔵地] ヒ(1) 上空高く飛ぶ
鈴木静治 | 4.01 [上沼田] フョウソウ(1) 停飛しなが
ら飛ぶ
鈴木静治 |
| 3.27 [江蔵地] /ス(1) ルボウ(1) に上空で
追われる
鈴木静治 | 4.01 [上沼田] フョウソウ(1) 電線から田
に低空飛行する
鈴木静治 |
| | 4.02 [江蔵地] へニシコ(1) 柳の枝より葦の |

- 繁みに隠れる 鈴木静治
 4.04 [布佐下新田] ツ(1) 上空を飛ぶ
 鈴木静治
 4.06 [千間橋] 材カ(1) 川岸の葦にとまる
 鈴木静治
 4.06 [布佐平和台] ツ(1) 住宅上空を旋回
 し飛ぶ 鈴木静治
 4.08 [手賀沼辺] ハブサ(1) 上沼1
 桑森亮・木村稔・田中功
 4.08 [布佐平和台] ツ(2) 電線上で交尾
 鈴木静治
 4.09 [江蔵地] ハニシ(2) 河原の柳にとまり
 鳴く 鈴木静治
 4.09 [江蔵地] ヒ(1) 上空を飛ぶ
 鈴木静治
 4.09 [布佐] 材カ(1) 雑木から飛び出す
 鈴木静治
 4.09 [布佐平和台] ツ(1) 電線にとまり周
 りを見る 鈴木静治
 4.10 [江蔵地] ハニシ(2) 花芽のある柳の
 繁みで鳴く 鈴木静治
 4.10 [布佐平和台] ツ(2) 巣の近くでカス
 を追い回す 鈴木静治
 4.12 [上沼田] 材カ(1) 川岸の葦と田圃の
 間を飛び回る 鈴木静治
 4.12 [布佐平和台] ツ(2) 巣材を運ぶ、巣
 のある木の繁みで動く 鈴木静治
 4.15 [布佐平和台] ツ(1) 雄が電線で警戒
 中ハニシが通過したので、威嚇追尾
 鈴木静治
 4.16 [布瀬新田] フウカノボウ(1) 小川の畔
 の繁みより飛び出し、停飛しながら飛翔
 鈴木静治
 4.18 [江蔵地] ヒ(1) 上空高く飛ぶ
 鈴木静治
 4.18 [布佐平和台] ツ(2) 雄雌で巣を交替
 で守る 鈴木静治
 4.19 [布佐平和台] ツ(1) 雌は電線上に止
 まり、警戒する 鈴木静治
 4.19 [発作] ハブサ(1) 飛翔中に小鳥を追
 いかけるが、繁みに逃げられる
 鈴木静治
 4.20 [発作] ムカ(2) 大島桜の花の中の
 枝にとまる 鈴木静治
 4.21 [発作] ムカ(7) 桜、ぐみの生垣に
 とまる 鈴木静治
 4.24 [発作] ムカ(1) ぐみの生垣にとま
 る 鈴木静治
 4.24 [発作] 材カ(2) 川岸の葦の繁みで
 囀る 鈴木静治
 4.25 [千間橋] フウカノボウ(1) ハニシに
 追いかけられる 鈴木静治
 4.25 [発作] ムカ(9) 森の繁みにとまる
 鈴木静治
 4.25 [布佐平和台] ツ(2) 棕の木の枝に
 とまる 鈴木静治
 4.25 [布瀬新田] ムカ(4) 川岸の桜の木
 にとまる 鈴木静治
 4.26 [発作] ムカ(8) 河原の柳の繁みを
 移動 鈴木静治
 4.26 [布佐平和台] ツ(1) 巣の近くから飛
 び出す 鈴木静治
 4.28 [発作] セダヒシ(1) 林の繁みで囀
 る 鈴木静治
 4.30 [酒井根6丁目 下田の森] ヤガラ(1)
 14:28、鳴きながら移動
 飯泉仁・飯泉久美子
 4.30 [発作] ムカ(2) 田で採食
 鈴木静治
 4.30 [発作] セダヒシ(1) 林の繁みを移
 動 鈴木静治
 4.30 [発作] ムカ(5) 林に群れで飛来
 鈴木静治
 4.30 [発作] ツ(3) 林の高木にとまる
 鈴木静治
 5.01 [発作] ハブサ(1) 田の上空を通過
 鈴木静治
 5.02 [布佐平和台] ツ(1) 巣の近くの電線
 より飛び出し棕の木にとまる 鈴木静治
 5.03 [布佐平和台] ツ(1) 獲物を足に掴み
 飛び去る 鈴木静治
 5.04 [北新田] アサシ(1) 水張り田で採
 餌 中野久夫
 5.04 [発作] 材カ(1) 15:00、ハニシに
 追尾され畦に降り立つ
 飯泉仁・飯泉久美子
 5.07 [岩井新田] サバ(1) 木に止まる
 志賀鉄雄
 5.07 [岩井新田] フウカノボウ(1) 飛翔
 志賀鉄雄
 5.08 [布佐] ツ(1) 森の木の枝で獲物を鳴
 きながら食べる 鈴木静治
 5.08 [若白毛] ヒ(1) 林で囀り
 志賀鉄雄

5.09 [布佐] ヌ(2) 木の枝で 獲物食べ、
見守る 鈴木静治

5.10 [高野山] セダ 仏シイ(1) 轉る平岡考

5.10 [岡発戸新田] 比(1) 上空高く飛ぶ
鈴木静治・谷山晴男・猪爪敏夫
・間野吉幸

5.11 [金山] ヌバ(2) 電柱上に 志賀鉄雄

5.11 [下沼田] ウラヅ(1) 他のヅに混じ
り採食 鈴木静治

5.11 [浅間前] ハブ サ(1) 水田上空を高速
で飛ぶ 鈴木静治

5.11 [布佐] ヌ(1) 鳴きながら枝で小鳥
を食べる 鈴木静治

5.11 [布瀬] 牝(1) 林で囀り
志賀鉄雄

5.11 [布瀬] ヌコウヨウ(1) 林で囀り
志賀鉄雄

5.11 [布瀬] 牝(1) 斜面林で囀り
志賀鉄雄

5.11 [柳戸] 牝(1) 林で囀り
志賀鉄雄

5.11 [若白毛] ヌバ(1) 樹上より飛び立ち
志賀鉄雄

5.11 [若白毛] 牝(1) 林で囀り
志賀鉄雄

5.12 [布佐] ヌ(1) 森の木の枝にとまる
鈴木静治

5.12 [若白毛] ヌバ(1) 飛翔 志賀鉄雄

5.12 [若白毛] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄

5.12 [鷲野谷] ヌコウヨウ(1) 飛翔
志賀鉄雄

5.13 [布瀬] ヌコウヨウ(1) 鳴きながら斜面
林の中へ 志賀鉄雄

5.13 [布瀬] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄

5.14 [泉] ヌコウヨウ(1) 林で囀り 志賀鉄雄

5.14 [泉] 牝(1) 林で囀り 志賀鉄雄

5.14 [片山新田先手賀沼] 比(1) 13:25、
上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子

5.14 [若白毛] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄

5.16 [泉] ヌコウヨウ(1) 林の中鳴きながら
移動 志賀鉄雄

5.16 [泉] 牝(1) 林で囀り 志賀鉄雄

5.16 [布佐] ヌ(1) 地上近くで鳴く材が
急降下して威嚇 鈴木静治

5.16 [布瀬] ノリ(1) (上昇)飛翔 志賀鉄雄

5.16 [若白毛] 牝(1) 囀り(斜面林)
志賀鉄雄

5.17 [泉] ヌコウヨウ(1) 林の中鳴きながら
移動 志賀鉄雄

5.17 [泉] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄

5.18 [泉] 牝(1) 林で囀り 志賀鉄雄

5.18 [泉] ヌバ(1) 樹上より飛び立ち
志賀鉄雄

5.18 [若白毛] 牝(1) 囀り 志賀鉄雄

5.19 [泉] ヌコウヨウ(1) 囀りながら移動
志賀鉄雄

5.19 [泉] ヌバ(1) 斜面林で声 志賀鉄雄

5.19 [泉] 牝(1) 林で囀り 志賀鉄雄

5.20 [泉] ヌバ(1) 枯れ木上より飛び立ち
志賀鉄雄

5.20 [布瀬] 牝(1) 斜面林で囀り
志賀鉄雄

5.20 [若白毛] 牝(1) 林で囀り
志賀鉄雄

今回寄せられた鳥の全種名

アオアシシギ、アオサギ、アオジ、アカエ
リヒレアシシギ、アカハラ、アマサギ、イ
ソシギ、イワツバメ、ウグイス、ウズラシ
ギ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オ
オバン、オオヨシキリ、オナガ、オナガガ
モ、カイツブリ、カケス、カルガモ、カワ
ウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイ
ツブリ、キアシシギ、キジ、キジバト、キ
ビタキ、キョウジョシギ、キンクロハジロ、
クイナ、コアシサシ、コイカル、ゴイサギ、
コガモ、コゲラ、コサギ、コチドリ、コチ
ョウゲンボウ、コブハクチョウ、コムクド
リ、サシバ、サンコウチョウ、シジュウカ
ラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズ
メ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セツ
カ、センダイムシクイ、ダイサギ、タカS
P、タシギ、タヒバリ、タマシギ、チュウ
サギ、チュウシャクシギ、チョウゲンボウ、
ツグミ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ハ
イイロチュウヒ、ハクセキレイ、ハシブト
ガラス、ハシボソガラス、ハマシギ、ハヤ
ブサ、バン、ヒバリ、ヒヨドリ、ピンズイ、
フクロウ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジ
ロ、ホシハジロ、マガモ、ミヤマガラス、
ムクドリ、ムナグロ、メジロ、モズ、ヤマ
ガラ、ユリカモメ 計 88 種

< 番外種 >

カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉久美子	1	染谷迪夫・木村稔	13
飯泉仁	214	中根忠	2
飯泉仁・飯泉久美子	102	中野久夫	18
桑森亮・木村稔・田中功	19	平岡孝	4
志賀鉄雄	77	総計	1011
鈴木静治	509		
鈴木静治・谷山晴男			(浅井 久)
・猪爪敏夫・間野吉幸	43		
鈴木静治・田中功	9		

40周年記念行事を終えて

我孫子野鳥を守る会40周年記念事業を通じて感じたこと

間野吉幸

我孫子野鳥を守る会は今年の3月で設立40周年を迎えました。40周年事業に取り掛かったのは2年前でどんな事業を行うか準備委員会が発足し検討を始め、約半年を掛けて事業の枠組みが出来上がりました。前回の30周年記念事業では、記念誌の発行、記念講演会、記念パーティの3事業でした。会の目的を40周年事業にどう実現するか議論を重ねた結果、前回の倍の6事業が提案されました。会員の40周年記念事業に対する意気込みが強く感じられました。

一番時間と労力がかかったのは記念誌でした。手賀沼の水鳥の減少は目を覆うばかりでこの実態を広く知って頂くことと水鳥復活の切り口を探しました。これらを「手賀沼の鳥」として現在の手賀沼とその周辺の野鳥の実態を纏めました。

もう一つの記念誌は、多くの市民の方がよく散歩する所が実は優れた探鳥地であります。気づかず通り過ぎてしまう散歩道を、ちょっと注意深く見ると野鳥や昆虫や草木が、私達を楽しませてくれます。これらを会員が毎月一年間足を運んで観察した7コースの記録を四季毎に分けて、手賀沼周辺散歩を楽しむガイドブックとして発行しました。

一般の方が野鳥を楽しむようになるには、野鳥に詳しい人に付いた探鳥会が一番です。野鳥を好きになって貰おうと大型バスを仕立てた遠出の探鳥会を2月5日に行いました。一部の会員は自家用車分乗するなど57名の参加を得ました。担当幹事は人集め、一般の方にどうしたら探鳥を楽しんで貰うか、安全の確保など準備と実施を行い大盛会の楽しい探鳥会が出来ました。

「写真展：会員の写真で綴る40年」は40年の会の活動を写真で提示しました。40年間に手賀沼周辺で現れた珍しい鳥・身近になった野鳥の写真も展示しました。また13年間調査を続けている「手賀沼ビオトープの鳥たち」を紹介しました。写真の収集・選択・分類、そして展示のストーリー性、膨大な写真の会場添付などかなりの時間と労力を必要としましたが、担当チームの頑張りで見事な展示ができ好評を博しました。(3月13日～18日実施)

記念講演会は絶滅の危機にあったアホウドリの回復に取り組んでいる山階鳥研の副所長である尾崎清明博士にお願い致しました。「アホウドリ 絶滅の危機から回復へ～衛星追跡で判った行動圏～」と題し絶滅の危機に至った原因から回復までのご苦労、最新の研究内容を分かり易くお話し頂きました。会場は140名と満席になることが出来ました。一般市民の方が大勢聴講されたことを大変嬉しく思っています。

通常の行事を行いながら2ヶ月の間に40周年事業を5つ成功裏に行えたことで、我孫子野鳥を守る会の底力を私は感じました。それは夫々の担当会員の熱意と団結力があって出来たと思います。40周年事業は新たな10年に向かってのスタート台のような気がしています。

残りの一事業「40周年記念パーティー」も本紙が発行される頃に無事終了していると思います。多くの力を集結した地道な活動の積み重ねを継続することが如何に大切であることを改めて感じました。

我孫子野鳥を守る会創立 40周年記念パーティー

染谷迪夫

4月14日(土)午後1時30分より、けやきプラザ9階の南近隣センターのホールで参加会員56名で行われました。会員同士の和気合い合いのパーティーとなりました。けやきプラザ11階のムッターランドからは料理だけをケータリングし、飲み物は、当会の担当が用意するという手作りのパーティーでした。午後早い時間のパーティーとあって、女性の会員も多く集まり、質素とはいえ、華やかな集まりとなったようです。進行役も女性にお願いし、そのことも和やかさを増したようです。お酒が進むにつれて、あちこちで、会の40年の長い歴史の思い出話も出ていました。40年もの長い間、会が維持され、益々発展している事は、驚くべき事だと思います。恒例になっている年末の芋煮会の長寿開催といい、当会はずいずい潜在能力を占めていると改めて、確認しました。それと言うのも、会員各位の決して若くないのにもかかわらず、常に前向きの姿勢と自身の健康管理の賜物ではないでしょうか。これから創立50周年に向けてまた、会がいつまでも続くように祈りたい。宮下副会長の中締めのおあと、お名残おいしいのですが、お開きとなりました。

<参加者>石渡成紀、松田幸保、間野吉幸、猪爪敏夫、宮下三禮、植田啓介、六角昭男、金子幸子、川越久枝、飯島博、北原建郎、大久保陸夫、桑森亮、木村稔、小玉信子、小島経一、小玉文夫、小林寿美子、古出洋子、田中功、佐々木隆、田中恒雄、佐藤弘美、松本勝英、鈴木静治、松本葉子、染谷迪夫、首藤佑吉、田丸メリールイス、和田朋之、田丸喜昭、橋本了次、常磐孝義、平岡考、西嶋昭生、野口隆也、野口洋子、橋本清、野口紀子、野口紀恵、船津登、松下勝子、金子雅幸、吉田隆行、弘美さと子、小林秀美、坂巻宗男、島崎純造、蒲田知子、相良直己、中野久夫、榎本右、柴本三弘、柴本法子、類地佑子、八鍬雅子、天野睦子

40周年記念井頭公園探鳥会

猪爪敏夫

雪もほとんど解けて天気は快晴無風、気温8~10のなかで、創立40周年記念井頭公園探鳥会は事故も無く無事に計画どおり終了しました。

参加者57名(会員31名、一般市民26名)という大部隊になり、大型バス(45名)に乗り切れず、会員の自家用車3台(12名)の応援もあり、なんとか交通輸送は確保できました。

本行事は一般市民との触れ合い合同探鳥会であり、当初は市民の方々は何人くらい参加してくれるのかが懸念されましたが、26名の参加を得ました。

探鳥会はA~Dの4グループに分かれてバードソン形式で行い、41種を確認したAグループが見事優勝し、市民参加の5家族の皆さんに40周年記念誌「四季の手賀沼周辺散歩~野鳥と草木と風景と~」を差し上げました。

<参加者>一般参加26名。 会員参加:宮下三禮、染谷迪夫、田中功、古賀嗣郎、古賀道子、山田哲生、木村稔、野口洋子、池田日出男、池田紀子、小林博之、小林美智子、大久保陸夫、間野吉幸、金子幸子、船津登、田丸喜昭、弘美さと子、村松寿夫、小玉文夫、桑森亮、松本勝英、北原建郎、鈴木静治、松下勝子、金子雅章、金子智恵子 (担当)猪爪敏夫、小林寿美子、野口隆也、六角昭男 31名

40周年記念写真展

染谷迪夫

場所は、けやきプラザ2階の第2ギャラリー(我孫子駅南口徒歩1分)
日時は平成24年3月13日(火)から18日(日)創立40周年記念として、会員の写真で綴る40年を「手賀沼周辺に現れた珍しい鳥・身近になった野鳥及び会の活動」と題した、珍しい鳥、身近になった野鳥50種、会の活動の写真120点、合計200点を超える写真と「手賀沼ビオトープの鳥たち」の題で、1999年5月から13年間の鳥調査をA1版パネル6枚、

又広報誌ほーほーどり 1号から 10号単位で 220号まで、記念誌「手賀沼の鳥」「手賀沼の鳥」「手賀沼の鳥」一般記念誌「四季の手賀沼周辺散歩」その他の展示を行った。

開催 6日間の間に、会員 127名、一般客 216名 合計 343名もの方が来場した。会員の方は、活動の写真の前で、懐かしそうに見入り、往年を偲んでいた。又一般客は、珍しい鳥を眺めて、我孫子にこんな鳥がいるんですか、などと珍しがったり、驚いたりしていた。

40周年記念誌 「四季の手賀沼周辺散歩～野鳥と草木と風景と～」 野口隆也

40周年記念誌(一般向)制作グループを発足させ、4人の編集委員が今後の策定スケジュール等の案を作成し、10月には第1回のメンバー会議を開き、7コースの選定と行程表を決定。11月には3グループ・7コース制を決定しました。

その後、約1年間毎月のように調査散歩を繰り返し、その結果を春・夏・秋・冬・・・四季折々の野鳥と草木と風景等を纏め上げていきました。

手軽に野鳥と親しむ散策コース「手賀沼遊歩道」

バラエティ豊かな鳥と草木が楽しめる「手賀沼遊歩道」

山野の鳥が多種類見られる「あけぼの山周辺」

コブハクチョウ、ゴイサギ、ハヤブサ等が見られる「北柏ふるさと公園～ヒドリ橋」

森の鳥と水辺の鳥が見られる「手賀の丘公園・染井入落」

里山の自然が楽しめる「岡発戸・都部の谷津田」

ヨシゴイ、タカ類などが見られる「浅間橋周辺」

上記7コースの調査散歩も文章も写真も会員が中心となって足と汗でまとめた手作り作品です。本の題名も会員募集で「四季の手賀沼周辺散歩～野鳥と草木と風景と～」に決定し、本ができて上がる時には参加メンバーは実に32名にまで広がっていました。

2012年3月1日1,000部を発刊し、15%は会員に、15%が我孫子市、柏市、印西市などの近隣の学校・図書館・友好団体等に無償配布されました。残りの70%は一般市民へ有料頒布しました。

40周年記念誌 「手賀沼の鳥 ～食性別生息区分から見た水鳥の変遷～」 間野吉幸

本書では、1977年1月より今日に至るまで実施している定点観測法による水鳥の観察データと1972年10月より継続している「鳥便り」の約59千件余りの鳥情報データを基に10名の編纂委員で編纂しました。

本書は「手賀沼の水鳥の個体数調査」と「手賀沼とその周辺で観察された野鳥」のセクションに分けて書かれています。

「手賀沼の水鳥の個体数調査」は、水鳥激減の手掛かりを得るため手賀沼の水鳥を食性別生息区分別に群分けし、更に種別によるその動向を34年間のデータから解析した内容です。そこから得られた結論は、水鳥が生きるための絶対条件である食べ物が、手賀沼周辺で多くの野鳥を養うには不足状態にあること、繁殖・休息の場としての隠れ場が減少していること見えてきました。その上で人と野鳥(水鳥)が共存する環境づくりを提案しています。

「手賀沼とその周辺で観察された野鳥」では、2001年から2010年に焦点を当て、観察された時期と頻度、その鳥のレッドデータカテゴリーが否かを記載しました。手賀沼とその周辺にどんな野鳥が生息しているか簡単に分かるようにしました。これも手賀沼周辺地域の野鳥として貴重な情報であり、簡易図鑑としての役割も持っています。掲載した全202種の内、199種は会員の写真を掲載できたなど会員の活発な探鳥活動が読み取れる内容になっています。

40周年記念講演会

小玉文夫

40周年記念講演会は山階鳥類研究所副所長 尾崎清明氏を迎えて平成24年3月18日、水の館の研修室において「アホウドリ 絶滅の危機から回復へ - 衛星追跡で判った行動圏

- 」と題して開催されました。かつて、数十万羽いたと考えられているアホウドリが、羽毛採取のため乱獲され一時は絶滅したと見られていましたが、再発見から 60 年に及ぶ地道な保護活動により 2,700 羽までに復活したドラマを語られました。講演会の PR は各近隣センターへポスターの掲示、ビラの配布、市の広報への掲載、一般新聞社へのリリースなど地道な努力を行いました。その結果、会員および一般市民合わせて 140 名の聴衆は熱心に聞き入り、講演会は盛会の内に終了しました。

会 員 便 り (ab yacho より)

【手賀川】

我孫子・布佐地区では水田の代かき・畦作りも終わり一部では水入れも始まりました。手賀川を挟んだ柏市・布瀬新田では 3 割方の水田に水が入り、白い鷺がトラクターの周りに集まっていた(4/16)。はじめコサギと思いましたが、よく見ると嘴の色も違うこと、コサギが水田にこんなに多く集まっているのを見ていないことより、チュウサギと判りました。約 30 羽ほどいましたが、今季初見です。昨年も 4/18 に手賀川の中州で見えていますので時期はほぼ同じです。これから夏鳥のアマサギ、オオヨシキリ、ヨシゴイ等、渡りのムナグロ、キョウジョシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ等のシギ、チドリがいつから見られるか楽しみです。なお、手賀川では今、オオバン、バン、カイツブリ、コブハクチョウの番、巣作りの光景が見られます。(2012.04.17 鈴木静治)

【相島・発作】

我孫子市相島、柏市千間橋、印西市発作に 4/20 頃からムナグロ 30-50 羽の群れが飛ぶ姿が見えるようになってきました。現在、田は 3 割から 5 割程度水が入り、早いところでは田植えも終わった水田もあります。4/24 には発作の水田にチュウシャクシギが 7 羽(畦で休む 3、水田で採食 4)見られました。他のシギ・チドリは未だ見ていません。また発作では、4/20 頃よりセッカが囀り、コムクドリ 7 羽も見られました。4/24 キジの♂があぜ道を歩いているのを観察中、オオヨシキリ 2 羽の囀っているのに気がつきました。日々、刻々鳥の種類が変わってきているようです。(2012.04.24 鈴木静治)

4/24 までにムナグロ、チュウシャクシギが飛来したことをご連絡しましたが、4/28 頃よりやっとキョウジョシギの群れが田で採食している様子が観察できるようになりました。またウズラシギもみられました。チュウサギは 4/16 頃より見られていますが、4/25 にアマサギが 1 羽 田起こしのトラクターの後に飛来しました。なお近くの林では、渡りの途中と思われるセンダイムシクイの囀り(4/28)、アカハラの鳴き声、コムクドリ、カケス等も観察できました。発作地区の田は田植えが 5 割位されていますが、これからも農作業が続きますので、シギ・チドリはこれからが本格的に楽しめると思います。なお、観察・撮影される場合、農作業の妨げにならない配慮が必要と思います。(2012.05.01 鈴木静治)

【大津川】

一昨日(4/28)早朝、大津川を下橋からひとり橋まで散策しました。下橋近くの川畔の田圃でムナグロが 30 羽程度採餌していました。昨年もほぼ同時期に同様の地域で大津川周辺では初見でした。大津川では下流の田圃では一向にみかけないのですが、毎年下橋周辺のほぼ同様の地域へ定期的にやってくる事ができる鳥の力はすごいですね。シギはイソシギを 1 羽みただけでした。先週は大津川畔の田圃でコチドリを 2 羽見たのですが、今回は上記ムナグロとイソシギのみでした。カワラヒワは散策の途中で何度かみかけました。大津川の土手の葦の中でも既にオオヨ

シキリの鳴き声は聞こえています。キジは雄ばかり 14 羽もみかけました。鳴き声は他にも聞こえていましたので、僅か 3.5 km 位の距離ですから縄張り争いもこれから大変では・・・昨日 (4/29) は、夕刻、谷津干潟公園でセイタカシギの番いの面白い行動に見とれていたら、偶然に繁殖行動に遭遇し、瞬間ですがカメラに収めることができました。(2012.05.01 相良直己)

【布佐・発作】

布佐・発作ではムナグロ、キョウジョシギ、キアシシギ、チュウシャクシギの他にハマシギも見られるようになりました。これらを探していると、葦原でオオヨシキリが盛んに囀っているのですが、まだ葦の若芽・茎が小さいせいかなかなか姿が見られません。それでもじっくりと見てみると、枯れた葦、近くの木にとまっているのがわかります。まだ縄張りが確定していないらしくそこかしこ各々2羽で追いかけてっことをしています。以前 5/16 戸隠でキビタキの強烈な雄同士の縄張り争いを観察したことがありますが、5/25-26 再度観察した時にはもう縄張り争いは見られませんでした。

ちょうど今がオオヨシキリの縄張り争いを観察するには良い時期です。1 週間後には縄張り争いは見られなくなり、確定した縄張りの葦の先にとまり、落ち着いて囀るようになります。写真を撮るにはこのころが良いのですが。

なお、今年は急に暑くなったせいか、アオスジアゲハ、越冬したと思われるアカトンボ(種名は不明)が飛んでいました。また、例年 5/19-23 頃ヨシゴイを認めていますので、そろそろ中州で会えるのが楽しみです。(2012.05.07 鈴木静治)

【アオバズク】

一昨日の晩、残業帰りに我孫子市内の夜道を歩いていてアオバズクが鳴いているのに気づきました。たまたまハンディな録音機材がカバンに入っていたので録音しました。鳥研のある高野山のあたりでアオバズクが繁殖している話を聞いたのはもう 20 年ではきかない以前のことだと思います。まだまだ緑が多い我孫子ですが、そのころに比べれば緑は徐々に減ってきて、少なくとも高野山とその周辺ではアオバズクの声は、たまに聞かれた話であっても、1年のちょうどいまごろ、1日だけとか、2~3日だけということばかりのように思います。おそらくこの鳥も通過の途上で鳴いているのだらうと思います。もちろん居着いて繁殖してくれればうれしいですが、そうなればブログなんかには書けません。皮肉な話ですが、1日こっきりの出会いを楽しむのもそういう意味ではよいのかもしれない。

(2012.05.25 平岡考)

【手賀川のヨシゴイ】

先週まで見られたシギが、今週から見られなく、またサギ・カルガモも殆ど見られなくなりました。オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、キジ、ツバメは多く見られます。オオバン、カイヅブリは以前に比べあまり見られなくなっています。それでも稀にバンの親子に会うことがあります。ところで、手賀川の浅間橋周辺の中州に 5/25 から待望のヨシゴイが見られるようになりました。半年ぶりに東南アジアからの飛来です。まだ縄張りが決まらず喧嘩をしたり、中州間又は中州と川岸を飛んでいます。10羽程度でしょうか。また特に夕方「オーオー」と鳴くことがありますので、姿は見えなくても居場所はわかります。これから、飛来数も増えると思いますので、こちらに来られることがありましたら、是非ヨシゴイの飛翔を見てください。なお、日中は相当暑くなりますので、早朝又は夕方の観察が良いと思います。

(2012.05.27 鈴木静治)

平成 24 年度定期総会 報告

平成 24 年 4 月 8 日 (日) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分 水の館 3F 研修室において平成 24 年度定期総会が開催されました。平成 23 年度事業報告および平成 23 年度決算報告、平成 24 年度事業計画案および平成 24 年度予算案について提案説明があり、討議の結果、議案は全て原案どおり可決されました。

総会出席者は 30 名でした。

平成 24 年度事業計画

1. 探鳥会の実施

定例手賀沼探鳥会

手賀沼をフィールドとして、原則毎月第 2 日曜日に開催します。

遠出探鳥会

日帰りで近県などへ出かける探鳥会を 8～10 回程度、1泊 2 日の探鳥会を 3～4 回実施します。

第 23 回バードウィーク手賀沼探鳥会「Enjoy 手賀沼！」(同実行委員会主催)のイベントの一つとして実施されます。

我孫子市鳥の博物館と当会の共催です。

市民手賀沼探鳥会

我孫子市環境レンジャー、我孫子市と当会の共催です。

2. 野鳥等の調査及び保護など

手賀沼水鳥カウント

手賀沼で見られる水鳥の種類と個体数を毎月 1 回調査します。1977 年から実施しており、今年は 36 年目になります。

データベースの整備

手賀沼の水鳥カウント及び会員から寄せられた鳥情報によるデータベースの構築を引き続き継続します。

傷病鳥の保護など

市内で発見された傷病鳥や幼鳥などを保護・飼育し、快復すれば、放鳥します(県鳥獣保護ボランティア活動の一環)

3. 環境保全活動

クリーン運動に参加

例年の手賀沼ふれあい清掃に参加するほか、本年度も当会の行事として手賀沼

探鳥会の観察ポイント(沼の南岸)を中心にクリーン作戦などを行います。

美しい手賀沼を愛する市民の連合会の活動に参加

同会の構成団体として、手賀沼の浄化活動など積極的に参加します。

4. 啓発広報活動

会報の発行、配布

会報「ほーほーどり」を隔月に発行、配布して会員間のコミュニケーションをはかります。又会報は公共機関、学校、友好団体などに贈呈し、当会の PR と野鳥保護思想の普及に役立てます。(発行部数 300 部)

HP (ホームページ) の運営

内容の充実を更に計ります。

メーリンググループの運営

会員相互間のホットなコミュニケーションの場として、参加者の増加を計ります。

対外広報

当会の活動内容や手賀沼周辺の野鳥情報などの発信を積極的に行います。

探鳥会の指導

学校や他の団体から手賀沼周辺の鳥を観察指導の依頼をうけたときは可能な限り対応します。

対外発表など

当会の活動内容を積極的に外部に情報発信し、当会の存在をアピールします。

地元で開催される環境等野鳥に関係があるイベントには積極的に参加し、会員の日常活動の成果を発表し、会の目的実現に向けての啓蒙に努めます。

5. 創立 40 周年記念行事

記念パーティーの開催

平成 24 年 4 月 14 日(土)、我孫子近隣センターのホール(けやきプラザ 9 階)において午後 1 時 30 分より 3 時 30 分まで開催します

6. その他

映写会、勉強会の開催

会員が撮影した野鳥や昆虫、植物などの写真、ビデオなどを観賞すると共に、識別や生態などの勉強の機会とします。

行政の委員会などへの協力

行政機関の各委員会、意見交換会などに

は積極的に参加し、意見を提出します。
 会議の開催
 定期総会（4月）幹事会（年6回）を
 定期的に行き、会運営上の諸問題を検
 討、処理します。
 会員の親睦行事
 季節に応じ、適切に行事を計画して会員
 の親睦などをはかります。（納涼会、芋
 煮会など）

事務局長 野口隆也、事務局員 野口紀
 子、金子雅幸、田中恒雄、相良直己
 事務所 我孫子市白山 3-8-16 間野吉
 幸方
 連絡窓口 柏市柏 1001-5 野口隆也方
 電話 04-7163-7898
 柏支部新設 柏市柏 1001-5 野口隆也
 方 電話 04-7163-7898

3. H24年度下期行事予定

平成 23 年度決算および平成 24 年度予算

(単位 円)

23 年度決算 24 年度予算

収入の部

会費	292,000	300,000
会行事収入	881,700	1,500,000
その他の収入	441,554	0
積立金取崩し	1,000,000	0
前年度繰越金	189,562	624,710
合計	2,804,816	2,424,710

支出の部

野鳥の部	894,975	1,540,000
環境保全の部	2,200	10,000
啓発活動の部	176,747	250,000
庶務の部	76,856	101,000
その他費用	17,580	50,000
40周年記念事業	1,011,748	1,000,000
次期繰越金	624,710	373,710
合計	2,804,816	2,424,710

5 月 役 員 会 報 告

日 時 5月13日(日) 13:30~16:30

場 所 こもれび 調理室

1. 2012 年度幹事の一部移動

退任幹事 猪爪敏夫、松下勝子、吉田隆
 行

新任幹事 金子雅幸、蒲田知子、相良直
 己、船津登

幹事休職 浅井久

島崎純造顧問 申出により退任

2. 事務局担当の交代および事務所の変更 染谷迪夫事務局長の退任により新たな 事務局の選任

期 日	平成 24 年度下期行事
10/14(日)	手賀沼探鳥会、カウント
10/11(木)	ピオトープ
10/21(日)	葛西臨海公園探鳥会
11/03(土)	ジャパンバード
04(日)	フェスティバル
11/08(日)	ピオトープ
11/11(日)	手賀沼探鳥会、カウント 役員会
11/23(金)	伊豆沼・蕪栗沼探鳥会
24(土)	
11/25(日)	親子ふれあい探鳥会
12/02(日)	手賀沼ふれあい清掃
12/09(日)	手賀沼探鳥会、カウント
12/13(木)	ピオトープ
12/16(日)	芋煮会
12/24(金)	涸沼探鳥会
01/03(木)	小見川・神之池・江戸崎探鳥会
01/10(木)	ピオトープ
01/13(日)	手賀沼探鳥会、カウント 役員会
01/19(土)	清里・佐久探鳥会
20(日)	
01/27(日)	市民手賀沼探鳥会
02/03(日)	井頭公園探鳥会
02/10(日)	手賀沼探鳥会、カウント
02/14(木)	ピオトープ
02/17(日)	渡長瀬遊水地探鳥会
03/03(日)	銚子カモメ探鳥会
03/10(日)	手賀沼探鳥会、カウント 役員会
03/13(木)	ピオトープ
03/17(日)	北本公園自然探鳥会

4. 会報 227 号掲載記事予定

資料に基づき、検討のうえ決定した。

5. 検討事項

10 月 25 日実施予定の長寿大学探鳥指

導を行う。
創立 40 周年の活動年であった H23 年
度の活動を終え、今後の活動の方向性や
課題検討のための「次の一步検討委員会

(仮称)」を設けることを事務局で検討
し提案する。

「我孫子野鳥を守る会写真集 2012」の募集

今年も「我孫子野鳥を守る会写真集」の応募写真を募集します。この写真集は 2007 年に
始まりましたので今年で 6 回目になります。この写真集は会員の撮影した写真を CD-R や
DVD 等のメモリーに集約・記録して、会の活動に役立てることを目的にしています。過去 5
回の写真集は会の活動に大きく寄与しています。今回から相良が担当することになりました。
下記の募集要項をご覧の上、奮って応募してください。

1. 募集写真

会員の撮影した下記テーマの写真を募集します。

テーマ：鳥、動物、植物、風景、会の活動

国内、国外を含みます。

撮影日は何時であっても構いません。

ただし 2007～2011 年の写真集に入っているものは除きます。

2. 応募写真の条件

以下の条件を確認ください。

デジタル写真であること。

トリミング、レタッチ済であること。

大きく印刷することもあるため、極端にトリミングしたものは不可。

リサイズしないもの(小さくしないーピクセル数は原画をトリミングしたまま)である
こと。写真の大きさは目的によって変わるが、写真の内容によって小さくても価値のあ
るものは必要と思うので応募者に一任する。

写真の縦横は自由。

デジタル写真の拡張子は .jpg または .JPG であること。

3. 応募写真のファイル名

写真のファイル名は題名、撮影地、撮影年月日、撮影者氏名、管理番号としてください。

題名は先頭に置き、撮影地以下は順不同。

題名は鳥や動物、植物なら種名をカタカナで、不明なら不明と漢字で記入。カタカナは
全角にかぎる。種名がこの種と思われるが確定できないときはカタカナの種名の後ろ
に？(全角であること、半角はファイル名に使えない)をつける。会の活動の場合は行事
名を題名にする。

撮影地は簡明に漢字などで記入。

撮影年月日は YYMMDD の形式で必ず 6 桁で記載。

例：2010 年 4 月 15 日なら 100415 のように記入。

撮影者氏名は姓名を漢字などで記入。

管理番号は撮影者の必要とする管理番号があれば記入する。

各項目が混同する恐れがあれば適当にハイフンなどで区別する。

[例] ハチジョウツグミ? 北本自然公園 080306-155-028 西巻 実.jpg

JBF2006 手賀沼公園 061103-3-020 西巻 実.jpg

4. 注意事項

写真にタグを付けている方は消して下さい。撮影情報は残して下さい。

5. 応募方法

写真は次のフォルダーに入れて CD-R などに応募ください。

- ・鳥国内
- ・鳥国外
- ・自然物：動物、植物、風景など自然のもの。国外も含む。
- ・活動：会の活動

なお応募に使用された CD-R 等は返却いたしませんので悪しからずご了承ください。

応募者には“写真集 DVD”作成後ご提供いたします。

6. 応募締め切り

2012年7月31日 相良直己 必着。

7. 送付先

〒277-0921 柏市大津が丘3-48-5 相良直己宛

8. 連絡・問合せ先

Tel: 04-7191-3108

皆様の応募をお待ち申し上げます。

お詫びと訂正

225号掲載の涸沼探鳥会感想文(天野睦子氏)に一部脱落がありました。ここに深くお詫し、訂正いたします。訂正箇所は「225号5ページ左下から8行目」下記の下線部分が脱落していました。

『 涸沼苑にて

途上、運転中の田丸さん、電柱に止まることが多いと言ってた矢先にノスリ発見、両肩の勲章が目印とか、湖面には、ホージロガモ・ミコアイサ(パンダガモ)黒白の対比どちらもとても可愛い。会えてよかった! 帰路予約していたシジミを購入、さすがブランド、大粒で味良く、正月に美味しくいただきました。』

新会員紹介：橋本悦子(我孫子市)、原礼子(我孫子市)、池内大典(流山市)

ご寄付：西巻実さん、杉森文夫さん、瀬下猛男さん、大野正男さん、類地佑子さん、新山隆春さんよりご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

ほーほーどり No. 227 (2012年7~8月号)

発行 2012年7月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務所 270-1154 我孫子市白山3-8-16-104 間野方

連絡先 277-0005 柏市柏1001-5 野口隆也 Tel 04-7163-7898

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)